

4. 学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等 【平成 29 年度第 3 四半期】

<概要>

1. 日本学術会議主催学術フォーラム

- (1) 経費負担を要するものは、原則として年間 10 回程度
 (2) 経費負担又は職員の人的支援を要するものは、四半期ごとに計 3 件まで
 (3) 土日祝日開催のものは、四半期ごとに 2 件まで

○今回提案【平成 29 年度第 3 四半期】 全 1 件

	提案番号	テーマ	開催希望日時	開催場所	経費負担	職員の 人的支援
1	提案 1 6 [p. 4-5]	日本学術会議主催学術フォーラム「乳幼児を社会科学的に分析する：発達保育実践政策学の深化」	平成 29 年 10 月 22 日(日)	日本学術 会議講堂	要	要

2. 土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等

- (1) 各年度 32 回まで、及び四半期ごとにおおむね 8 回
 (ともに土日祝日開催の日本学術会議主催学術フォーラムを含む)

○今回提案【平成 29 年度第 3 四半期】 全 1 件

	提案番号	テーマ	開催希望日時	主催委員会等名
1	提案 1 7 [p. 6-7]	公開シンポジウム「恐怖を哲学する－フィアー・ホラー・テラー－」(仮題)	平成 29 年 12 月 9 日(土)	日本学術会議哲学委員会

(参考) -----

■今回提案を含めた合計数

1. 学術フォーラム（平日 3 件/土日 3 件） 全 6 件

（内訳）※現在の 6 件につき、すべて経費及び人的負担要

		第 1 四半期 (4 月～6 月)	第 2 四半期 (7 月～9 月)	第 3 四半期 (10 月～12 月)	第 4 四半期 (1 月～3 月)
学術フォーラム	(土日)	－	2	1	(残り 4 件)
	(平日)	1	2	－	
合計		1	4	1	

2. 土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等（学術フォーラム含む）全 12 件

（内訳）

	関連部 等	第 1 四半期 (4 月～6 月)	第 2 四半期 (7 月～9 月)	第 3 四半期 (10 月～12 月)	第 4 四半期 (1 月～3 月)
シンポジウム	第一部	－	2	1	(残り 20 件)
	第二部	1	－		
	第三部	2	2		
	若手アカ デミー	－	－		
	課題別	1 ※	－		
学術フォーラム（土日）		－	2	1	
合計		4	6	2	

■承認済み案件一覧

1. 学術フォーラム

	テーマ	開催日時	開催場所	経費負担	職員の 人的支援
1	「危機に瀕する学術情報の現状とその将来」（仮題）	平成 29 年 5 月 18 日(木)	日本学術会議講堂	要	要
2	「放射性物質の移動の計測と予測－あのとき・いま・これからの安心・安全」	平成 29 年 8 月 7 日(月)	日本学術会議講堂	要	要
3	「提言「学術振興の観点から国立大学の教育研究と国による支援のあり方について」の推進について」（仮題）	平成 29 年 8 月 25 日(金)	日本学術会議講堂	要	要
4	「アジアの経済発展と立地・環境－都市・農村関係の再構築を考える」（仮題）	平成 29 年 7 月 8 日(土)	日本学術会議講堂	要	要
5	「Future Earth の推進と学校教育」（仮題）	平成 29 年 9 月 3 日(日)	日本学術会議講堂	要	要

2. 土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等

	テーマ	開催日時	主催委員会等	
1	「睡眠と生物時計：心身の健康を守るからだのリズム」	平成 29 年 5 月 28 日(日)	基礎生物学委員会・基礎医学委員会・臨床医学委員会合同生物リズム分科会	第二部
2	「材料工学から見たものづくり人材育成の課題と展望」	平成 29 年 4 月 22 日(土)	材料工学委員会材料工学将来展開分科会	第三部
3	公開ワークショップ「まちおこしの現場から明日を考える -若手・中堅研究者の提言-	平成 29 年 5 月 13 日(土)	土木工学・建築学委員会地方創生のための国土・まちづくり分科会	第三部
4	公開シンポジウム「ヒト受精卵や配偶子のゲノム編集を考える」	平成 29 年 4 月 30 日(日)	医学・医療領域におけるゲノム編集技術のあり方検討委員会	課題別
5	公開シンポジウム「市民性涵養のための法学教育（仮）」	平成 29 年 7 月 22 日(土)	法学委員会「市民性」涵養のための法学教育システム構築分科会	第一部
6	公開シンポジウム「法科大学院時代の法曹養成・法学研究者養成の課題と展望（仮）」	平成 29 年 7 月 29 日（土）	法学委員会、同「学術と法」分科会	第一部
7	公開シンポジウム「生態系インフラストラクチャーを社会実装する」	平成 29 年 7 月 17 日(月・祝日)	環境学委員会自然環境保全再生分科会	第三部
8	公開シンポジウム「災害軽減と持続的社会の形成に向けた科学と社会の協働・協創」	平成 29 年 9 月 17 日(日)	地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会	第三部

<各提案>

日本学術会議主催学術フォーラム「乳幼児を社会科学的に分析する：
発達保育実践政策学の深化」の開催について

1. 主 催：日本学術会議

2. 日 時：平成 29 年 10 月 22 日（日）13：00～17：00

3. 場 所：日本学術会議講堂

4. 開催趣旨：

第 22 期マスタープラン教育学分野の「学術の展望」に基づき提出した大型重点研究計画「乳児発達保育実践政策学研究教育推進拠点の形成」に基づく提案である。現在、世界規模で、就学前の子どもに対するケアや幼児教育のあり方が問い直されてきている。こうした動向の中、平成 27 年 7 月 1 日に、東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター(cedep)が設立された。同センター（正式発足前も含む）は日本学術会議主催学術フォーラムをすでに 3 回開催し、乳幼児の発達に関わる諸研究と実践の有機的な架橋を目指し、発達基礎科学・政策学・保育実践の立場から保育の現状と今後のあり方について多様な議論を積み重ねてきた。この問題に対する学術的・社会的関心は高く、継続的な議論の発展と深化が期待されている。

今回は、社会科学において研究の発展が著しい大規模データを用いた分析の知見を提供する。これまで乳幼児とその親などに関するデータは政府統計で収集されてきたが、近年では大学や民間の研究機関による縦断調査も始まっている。こうした大規模データの分析を通じて、乳幼児の長期的な発達や保育政策の効果を追跡することが可能になりつつあり、経済学を中心に興味深い研究成果が蓄積されている。今回は、その最新の知見を提示したうえで、発達心理学・教育行政学・保育学の立場から討論を行う。経済学的な知見が子どもの発達・政策・保育実践にとって持つ意義を多角的に議論し、学問分野間の交流を深めたいと考えている。

5. 次 第：

13:00～13:05 開会の挨拶

大桃 敏行（日本学術会議連携会員、学習院女子大学国際文化交流学部教授）

13:05-13:15 企画趣旨説明

遠藤 利彦（日本学術会議連携会員、東京大学大学院教育学研究科教授）

13:15～15:15

司 会：村上 祐介（東京大学大学院教育学研究科准教授）

話題提供：山口慎太郎（カナダ・マクマスター大学経済学部准教授）

「保育所入所の効果」

赤林 英夫（慶応義塾大学経済学部教授）

「家庭環境と子どもの発達」

川口 大司（東京大学大学院経済学研究科教授）

「親の社会経済的属性と低体重出生児」

15:15～15:30 休憩

15:30～16:50 指定討論

討 論 者：秋田喜代美（日本学術会議連携会員、東京大学大学院教育学研究科教授）
遠藤 利彦（日本学術会議連携会員、東京大学大学院教育学研究科教授）
村上 祐介（東京大学大学院教育学研究科准教授）

16:50～17:00 閉会の挨拶

村上 祐介（東京大学大学院教育学研究科准教授）

※来期の会員・連携会員の2名以上が参加する体制の確保を見込んでいます（23-24期連携会員の大桃敏行氏、秋田喜代美氏及び遠藤利彦氏がシンポジウム参加予定）。

公開シンポジウム「恐怖を哲学する—フィアー・ホラー・テラー—」（仮題）
の開催について

1. 主 催：日本学術会議哲学委員会、同委員会芸術と文化環境分科会、古典精神と未来社会分科会、いのちと心を考える分科会、哲学・倫理・宗教教育分科会
2. 共 催：日本哲学系諸学会連合、日本宗教研究諸学会連合
3. 日 時：平成 29 年 12 月 9 日（土）13：30～17：00
4. 場 所：日本学術会議講堂
5. 分科会等の開催：開催予定

6. 開催趣旨：

恐怖という情動／感情は、これまで哲学の主題になることが少なかったかもしれない。それは、笑い、絶望、不安といった情動に比べて、恐怖はどこか人間的ニュアンスに欠けた、原始的なものとみなされているからではないか。たしかに、恐怖を感じ、それによって動かされるのは人間だけではない。他の動物も、敵に襲われると恐怖の表情を浮かべて叫び声をあげ、逃げたり隠れたりする。おそらく、動物は進化の過程で外敵から身を守るために恐怖という情動を身につけたのだろう。

人間も、こうした古くからの恐怖のシステムを使って生きている。しかし、人間は高度な表象能力も身につけたために、おそらく他の動物にはできないことができるようになった。それは、「今その場にはないものを恐れる」ということである。動物にも見られる原始的な仕組みを使って、動物には決して恐れることのできないことがらを恐れることができる。これはとても興味深い人間的現象である。この能力のおかげで、一方で、人間は古来から連綿と続く娯楽のジャンル、「ホラー」と呼ばれるものを手に入れた。他方で、この能力があるのおかげで、人々を操作し支配する新たなやり方が生まれた。恐怖によるコントロールである。「テロリストが来る（かもしれない）」「〇〇人が水に毒をまぜた（かもしれない）」。今そこにはないものへの恐れを巧みに煽ることで、人々は容易く操作され支配に屈し、異文化間の相互承認はストップする。

このように、動物と共有しているのに、動物にはない楽しみと悲惨さをわれわれにもたらす恐怖は、興味深いと同時にきわめて重要かつアクチュアルな思想的主題である。本シンポジウムでは、われわれに深く根ざした恐怖という情動の本性を明らかにし、「現実の方がよっぽどホラーだ」と言いたくなる現代社会においてそれとどのように対峙していけば良いのかを考える。

7. 次 第：

司会：岡田真美子（日本学術会議第一部会員、中村元記念館東洋思想文化研究所研究員）

13：30～13：40

開会挨拶：戸田山和久（日本学術会議第一部会員、名古屋大学大学院情報科学研究科教授）

13：30～15：00

報告：報告 1 三嶋輝夫（青山学院大学名誉教授）

報告 2 石田美紀（日本学術会議連携会員、新潟大学人文学部准教授）

報告 3 佐藤弘夫（日本学術会議連携会員、東北大学大学院文学研究科教授）

報告 4 藤原聖子（日本学術会議第一部会員、東京大学大学院人文社会系研究科教授）

15：00～15：20 休憩

15：20～16：50

ディスカッション

ディスカッサント：戸田山和久（日本学術会議第一部会員、名古屋大学大学院情報科学研究科教授）

16：50～17：00

閉会挨拶：小島毅（日本学術会議連携会員、東京大学大学院人文社会系研究科教授）

8. 関係部の承認の有無：第一部承認

（下線の報告者等は主催委員会等委員）

※申請理由：

来期の会員・連携会員の2名以上が参加する体制の確保を見込んでいる（哲学委員会から23-24期会員の戸田山和久委員、岡田真美子委員、藤原聖子委員、23-24期連携会員の小島毅委員がシンポジウム参加予定）。

公開シンポジウム「原子力発電所の自然災害への対応－福島事故の津波対策を例として－」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議総合工学委員会原子力事故対応分科会

2. 日 時：平成 29 年 8 月 1 日（火）13：00～16：35

3. 場 所：日本学術会議講堂 外 1 室

4. 分科会等の開催：開催予定

5. 開催趣旨：

福島第一原子力発電所の事故からの大きな教訓として考えさせられることは、自然災害の一つの津波への対策の取組である。原子力発電所の設置を判断するときには、津波対応は重大な課題であった。しかし、2011 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震による津波は、想定を大きく超え、東日本の太平洋岸一帯に甚大は被害をもたらす事態となった。

これまでの原子力発電所における耐津波策の基本は、敷地高さが想定される津波高さに対して十分な高さを有することであった。また、津波高さの基準は、基本的に過去の津波調査の結果を元とするものを定めていた。2000 年になりようやく新たな津波評価手法が提案され、その後次々と新たな手法の提案が出される度に評価の見直しとその結果に対応した対策が取られてきた。しかし、結果的に津波リスクの評価が適切ではなかった。

原子力事故対応分科会福島第一原子力発電所事故調査に関する小委員会では、我が国の津波想定に係る検討および対策の経緯、福島事故以降に明らかになった津波に関する知見を検討してきた。

今後発生すると言われている東南海地震では、相当数の犠牲者が想定されており事業者、規制部門、地方自治体を含んでの防災を喚起するため、本シンポジウムにより原子力発電所の津波対策の問題点、あわせて自然災害への対応策を広く提起して行きたい。

6. 次 第：

13：00 開会の辞

挨拶 矢川 元基（日本学術会議連携会員、公益財団法人原子力安全研究協会
会長）

（第 1 部）講演

13：10 福島第一原子力発電所事故発生以前の津波高さに関する検討経緯

－想定津波高さと東電の対応の推移－

吉田 至孝（株式会社原子力安全システム研究所主席研究員、福井大学附属国
際原子力工学研究所客員教授）

13：50 今後の東南海地震への対応・リスク評価の考え方、BWR 型

仲村 治朗（中部電力株式会社原子力本部原子力土建部部長）

14：15 今後の東南海地震への対応・リスク評価の考え方、PWR 型

調整中（九州電力株式会社テクニカルソリューション統括本部土木建築本部）

14：40 新知見の活かし方と仕組みーどうあるべきかー
関村 直人（日本学術会議連携会員、東京大学大学院工学系研究科教授）

15：05－15：15 （ 休憩 ）

（第2部）パネル討論「原子力発電所におけるこれからの自然災害対策」

15：15 ～16：30

（ファシリテーター）

宮野 廣（法政大学大学院客員教授）

（パネリスト）

今村 文彦（東北大学災害科学国際研究所教授津波工学研究分野）

佐野 正博（明治大学経営学部教授）

関村 直人（日本学術会議連携会員、東京大学大学院工学系研究科教授）

仲村 治朗（中部電力株式会社原子力本部原子力土建部部長）

調整中 （九州電力株式会社テクニカルソリューション統括本部土木建築本部）

16：30 閉会挨拶

松岡 猛（日本学術会議連携会員、宇都宮大学基盤教育センター非常勤講師）

7. 関係部の承認の有無：第三部承認

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

「女子中高生夏の学校 2017～科学・技術・人との出会い～」の開催について

1. 主 催：日本学術会議科学者委員会男女共同参画分科会
2. 共 催：独立行政法人国立女性教育会館、お茶の水女子大学、沖縄科学技術大学院大学
3. 後 援：男女共同参画学協会連絡会、埼玉県教育委員会
4. 日 時：平成29年8月5日（土）～8月7日（月）
5. 場 所：独立行政法人国立女性教育会館
6. 分科会等の開催：なし

7. 開催趣旨：

女子中高生が「科学技術にふれ」、科学技術の世界で生き生きと活躍する女性たちと「つながり」、科学技術に関心のある仲間や先輩とともに「将来を考える」機会として「女子中高生夏の学校 2017～科学・技術・人との出会い」を開催する。

このプログラムは、2泊3日の合宿研修期間中、女子中高生が科学研究者・技術者、大学生・大学院生等との交流を通じて、理系進路の魅力を知り、あるいは再確認し、理系に進もうという意思を高めることを目指している。加えて、合宿研修後に継続的に実施するメンター相談活動では、女子中高生が進路選択、キャリア形成について考えを深めるための支援を行う。

また、保護者や教員向けの合宿研修プログラムも準備し、保護者や教員が女性と理系キャリアの関係への理解を深め、理系進路選択を希望している女子中高生の良き理解者、助言者となるヒントを得てもらうことを目指す。

8. 次 第：

<第1日 8月5日（土）>

13:00～13:30 開校式【共通】

開会宣言 永合由美子（実行委員長（日本女性技術者フォーラム会員、BM Design 研究所 技術コンセプトデザイナー））

あいさつ 内海 房子（国立女性教育会館理事長）

松尾由賀利（日本学術会議第三部会員、法政大学理工学部教授）

オリエンテーション

古澤 亜紀（茨城県立水戸農業高等学校教諭）

13:30～14:00 サイエンスアンバサダー「自分の将来について考えよう」【共通】

14:15～15:45 キャリア講演【共通】

16:00～17:30 学生企画【女子中高生】

16:00～17:30 夏の学校を知る【保護者】【教員】

19:15～20:45 学生企画「サイエンスバトル!？」【女子中高生】

19:15～20:45 サイエンスカフェⅠ「学会、大学、企業等の研究者・技術者との座談会」

【保護者】【教員】

「女子中高生の理系選択にかかわる親や教員の影響（仮題）」

河野銀子（山形大学地域教育文化学部教授）

男女共同参画学協会連絡会、大学、企業等から数名 ※調整中

21:00～22:00 天体観望会【共通/希望者】

21:00～22:00 研究者・技術者とのキャリア・進学懇談会①【共通/希望者】

<第2日 8月6日（日）>

9:00～11:30 サイエンスアドベンチャーⅠ「ミニ科学者になろう」【女子中高生】

9:00～10:00 実験・実習の参加・見学【保護者】【教員】

10:00～11:30 1日目の振り返りと中間まとめ【保護者】【教員】

13:00～15:50 サイエンスアドベンチャーⅡ「研究者・技術者と話そう」【女子中高生】

13:00～15:00 講演とディスカッション【保護者】【教員】

「理系分野の女性技術者・研究者へ（仮題）」

井野瀬久美恵（日本学術会議第一部会員・副会長、甲南大学文学部教授）

15:00～15:50 サイエンスカフェⅡ「ポスター展示・キャリア相談見学」【保護者】【教員】

16:00～17:30 学生企画「Gate Way」【女子中高生】

16:00～17:30 サイエンスカフェⅢ「研究者・技術者、大学生、新社会人との座談会」
【保護者】【教員】

18:00～19:00 交流会【共通】

19:15～20:45 学生企画「キャリア・プランニング」【女子中高生】

19:15～20:45 サイエンスカフェⅣ【保護者】【教員】

21:00～22:00 研究者・技術者とのキャリア・進学懇談会②【共通/希望者】

21:00～22:00 国際交流「もっと話そう英語」【女子中高生/希望者】

<第3日 8月7日（月）>

9:00～11:00 キャリア・プランニングポスター発表会【女子中高生】

9:00～11:00 夏の学校を振り返る【保護者】【教員】

10:00～11:00 キャリア・プランニングポスター発表会見学【保護者】【教員】

11:15～11:45 学生企画「夏学振り返りと表彰式」【共通】

11:45～12:15 サイエンスアンバサダー任命式・閉校式【共通】

永合由美子（実行委員長（日本女性技術者フォーラム会員、BM Design
研究所 技術コンセプトデザイナー））

（下線の登壇者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「食の科学研究最前線－機能性食品と日本食」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会・食料科学委員会・東北地区会議
2. 共 催：東北大学「知の集積事業・日本食プラットフォーム」、東北大学大学院農学研究科、日本農学アカデミー
3. 日 時：平成 29 年 8 月 10 日（木）13：30～17：30
4. 場 所：東北大学大学院農学研究科 大講義室
5. 分科会等の開催：開催予定
6. 開催趣旨：

食品中に栄養素以外にも疾病予防や健康増進に役立つ成分（機能性成分）が含まれているということが示されて以来、食品の機能性に関する研究が世界中で行われるようになった。日本はその研究を牽引し、科学的証拠を基盤として食品に健康表示を認める制度（トクホ制度）を世界に先駆けて設定した。一方、日本の伝統的な食生活を支える和食（日本食）と健康・長寿の関係が指摘され、そこで利用される多様な食材や栄養バランスなどにも国内外から注目が集まった。本シンポジウムでは「機能性食品」と「日本食」という我が国が誇る新旧 2 つの食品形態を対象に、「食と健康」に関わる現在の課題や将来への展望について企業や一般市民も含めて討論し、理解を深める。
7. 次 第：

13：30 開会挨拶
 清水 誠（日本学術会議第二部会員、東京農業大学応用生物科学部教授）

13：40 挨拶
 牧野 周（東北大学大学院農学研究科科長、教授）

13：50 日本食の栄養と健康増進機能
 宮澤 陽夫（日本学術会議連携会員、東北大学未来科学技術共同研究センター教授）

14：20 日本食のおいしさと食品加工技術
 藤井 智幸（東北大学大学院農学研究科教授）

14：50 日本食における発酵・醸造技術 - 麹菌を中心として -
 北本 勝ひこ（日本薬科大学特任教授、東京大学名誉教授）

15：20－15：40 （ 休憩 ）

15：40 機能性食品研究の現状と機能性表示食品制度
 清水 誠（日本学術会議第二部会員、東京農業大学応用生物科学部教授）

16：10 機能性農産物の開発と機能性表示食品制度の活用
 山本(前田)万里（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所食品機能研究領域長）

16：40 機能性食品・日本食のフードシステムを支えるインフラを

三石 誠司（宮城大学大学院食産業学研究科教授）

17：10 閉会挨拶

川井 秀一（日本学術会議第二部会員、京都大学大学院総合生存学館特定教授）

司会：清水 誠（日本学術会議第二部会員、東京農業大学応用生物科学部教授）

小田切徳美（日本学術会議第二部会員、明治大学農学部教授）

8. 関係部の承認の有無：第二部承認、科学者委員会

（下線の講演者等は、主催委員会委員）

公開シンポジウム「第 64 回理論応用力学講演会」の開催について

1. 主 催：機械工学委員会・土木工学・建築学委員会合同 IUTAM 分科会
2. 共 催：公益社団法人応用物理学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人自動車技術会、地盤工学会、公益社団法人土木学会、一般社団法人日本応用数理学会、一般社団法人日本風工学会、一般社団法人日本機械学会、公益社団法人日本気象学会、一般社団法人日本計算工学会、日本計算数理工学会、一般社団法人日本建築学会、一般社団法人日本原子力学会、一般社団法人日本航空宇宙学会、日本混相流学会、公益社団法人日本地震工学会、一般社団法人日本数学会、公益社団法人日本船舶海洋工学会、公益社団法人日本伝熱学会、一般社団法人日本物理学会、一般社団法人日本流体力学会、公益社団法人農業農村工学会（すべて予定）
3. 日 時：平成 29 年 8 月 22 日（火）9:30 ～24 日（木）17:15（3 日間）
4. 場 所：機械振興会館（東京都港区）
5. 分科会の開催：開催予定
6. 開催趣旨：
「理論応用力学講演会」は力学に関する最も権威ある国際組織 IUTAM の開催する国際会議の国内版として長年開催されてきた。力学分野が細分化する中で、各々の分野の先端的研究成果に関する最新動向を共有するとともに、各分野が共通に抱える問題や将来への展望についても分野を超えて情報交換することが本講演会開催主旨である。
7. 次 第：
開催日の最初に、日本学術会議 機械工学委員会・土木工学・建築学委員会合同 IUTAM 分科会委員長の挨拶を行うとともに、新規設置「国内対応企画小委員会」を中心に計画予定の企画を実施する予定である。

8 月 22 日(火)

13:00～13:15 開会の挨拶

藤井孝藏（日本学術会議第三部会員、東京理科大学工学部教授）

姫野龍太郎（国立研究開発法人理化学研究所銃砲基盤センター・センター長、第 64 回理論応用力学講演会運営委員会委員長）

13:15～14:15

特別講演 1 「工学の復権（仮）」

松本洋一郎（日本学術会議第三部会員、国立研究開発法人理化学研究所理事）

司会（案）：和田章（日本学術会議連携会員、東京工業大学名誉教授）

8 月 23 日(水)

15:30～17:30

パネルディスカッション「大規模線形方程式の解法の現状（仮）」

モデレータ：藤野清次（国立研究開発法人理化学研究所客員研究員）

パネリスト：今倉暁（筑波大学大学院システム情報工学研究科助教授）、
稲垣和久（富士通アドバンステクノロジー株式会社 HPC 適用推進統括部）

8月24日（木）

13:00～14:00

特別講演2 「ビッグデータと機械学習（仮）」

樋口知之（大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 統計数理研究所所長）

司会（案）：姫野龍太郎（国立研究開発法人理化学研究所銃砲基盤センター・センター長）

14:00～14:10 閉会の挨拶

池田駿介（日本学術会議連携会員、東京工業大学名誉教授）

研究発表（テーマを一般公募）

8月22日（火） 9:30～12:00 5-7室, 研究発表 30 - 50件

14:15～16:45 5 - 7室, 研究発表 15 - 30件

8月23日（水） 9:30～12:00 5 - 7室, 研究発表 30 - 50件

8月24日（木） 9:30～12:00 5 - 7室, 研究発表 30 - 50件

14:00～17:15 5 - 7室, 研究発表 30 - 50件

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

（下線の登壇者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「大地震に対する大都市の防災・減災」の開催について

1. 主 催：日本学術会議土木工学・建築学委員会大地震に対する大都市の防災・減災分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成 29 年 8 月 28 日（月）12：00～16：00
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会の開催：開催予定

7. 開催趣旨：

大都市直下の大地震発生が予測される中、大都市への人・構造物・機能の過度の集中と複雑なシステムにより震災リスクがますます高まっている。マグニチュード7クラスの首都直下地震が起きた場合、2万人を超える死者だけでなく、わが国の国家予算に匹敵する規模の被害が予測されている。現状は、大都市の賑やかで活発な生活と活動を広げつつ、震災発生を前提にして地震後の対応のための対策・準備に重点がおかれている。一朝一夕には進まないが、将来の都市構成を見通した中で災害を極力減じるための抜本的で具体的な活動を、個人・家族・企業・自治体・国は、それぞれ且つ協力して推進すべきである。

本シンポジウムでは、大都市の震災軽減につながる強靱な都市・社会の構築に向けたハード・ソフト対策と、将来的に目指すべき国土や都市の構成に関して当分科会で議論してきたことを説明し、これをもとに大地震に対する大都市の防災・減災について真剣な議論を行いたい。

8. 次 第：

（司会）：田村 和夫（日本学術会議連携会員、千葉工業大学建築都市環境学科工学部教授）

12：00 開会あいさつ

「専門を超える視野を持って行動する努力」

米田 雅子（日本学術会議第三部会員、慶應義塾大学
研究連携推進本部特任教授）

12：10 背景と課題

「震災への抜けのない考察・イメージーションと対策」

和田 章（日本学術会議連携会員、東京工業大学名誉教授）

12：30 居住、活動のための適地の選択

浅岡 颯（日本学術会議連携会員、財団法人地震予知総合研究振興会副首席
主任研究員）

12：45 大都市地震係数の採用

田村 和夫（日本学術会議連携会員、千葉工業大学建築都市環境学科工学部

教授)

- 13 : 00 土木構造物・建築物の耐震性確保策の推進
小野 徹郎 (日本学術会議連携会員、名古屋工業大学名誉教授)
- 13 : 15 人口集中、機能集中の緩和
福井 秀夫 (日本学術会議連携会員、政策研究大学院大学教授)
- 13 : 30 留まれる社会、逃げ込めるまちの構築
沖村 孝 (日本学術会議連携会員、神戸大学名誉教授)
- 13 : 45 情報通信技術の強靱化と有効な利活用
山本佳世子 (日本学術会議連携会員、電気通信大学大学院社会情報システム学研究科准教授)
- 14 : 00 大地震後への準備と行動
南 一誠 (日本学術会議連携会員、芝浦工業大学工学部教授)
- 14 : 15 耐震構造の進展と適用
高橋 良和 (日本学術会議連携会員、京都大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻教授)
- 14 : 30 国内外の震災から学ぶ、国際協力、知見や行動の共有
東畑 郁生 (日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授)
- 14 : 45－15 : 00 (休 憩)
- 15 : 00 質疑応答・総合討論
- 15 : 50 閉会挨拶
東畑 郁生 (日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授)
- 16 : 00 閉会

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

(下線の講演者等は、主催委員会(分科会)委員)

公開シンポジウム「Progress in Materials Science: Present Issues and Future Direction」
の開催について

1. 主 催： 日本学術会議材料工学委員会、同委員会新材料科学検討分科会

2. 共 催： 一般社団法人日本 MRS

3. 後 援： なし

4. 日 時： 平成 29 年 8 月 29 日（火）12：30～18：00

平成 29 年 8 月 30 日（水）12：30～18：00

5. 場 所： 京都大学本館講堂（予定）

6. 分科会等の開催： 開催予定

7. 開催趣旨： 材料科学及び工学分野について、その現状を把握するとともに将来の発展に向けた課題と問題を明らかにするため、イノベーションと材料科学、材料科学の学理、関連分野の学会と学術出版、ならびに、教育と社会におけるプレゼンスという 4 つの視点から有識者の意見交換と討論を行うものである。

8. 次 第：

平成 29 年 8 月 29 日（火）

12：30 Discussion 1: Innovation and Materials Science

総合司会： 細野 秀雄（日本学術会議第三部会員、東京工業大学学フロンティア研究機構教授）

12：40 講演：

橋本 和仁（日本学術会議第三部会員、国立研究開発法人物質・材料研究機構理事長、
東京大学総長特別参与・教授）

片岡 一則（日本学術会議第三部会員、川崎市産業振興財団ナノ医療イノベーション
センターセンター長）

他 2 名（非会員：招待講演）

14：30 総合討論：

（コメンテーター）

福山 秀敏（日本学術会議連携会員、東京理科大学総合研究所機構長）

他 3 名（非会員）

15：00－15：30 （ 休憩 ）

15：30 Discussion 2: Discipline of Materials Science

総合司会： David S. Ginley（National Renewable Energy Laboratory, Fellow）

15 : 40 講演 :

細野 秀雄 (日本学術会議第三部会員、東京工業大学科学技術創成研究院教授)

小谷 元子 (日本学術会議第三部会員、東北大学大学院理学研究科教授)

他 2 名 (非会員 : 招待講演)

17 : 30 総合討論 :

(コメンテーター)

福山 秀敏 (日本学術会議連携会員、東京理科大学総合研究所機構長)

橋本 和仁 (日本学術会議第三部会員、国立研究開発法人物質・材料研究機構理事長、
東京大学総長特別参与・教授)

片岡 一則 (日本学術会議第三部会員、川崎市産業振興財団ナノ医療イノベーション
センターセンター長)

他 1 名 (非会員)

平成 29 年 8 月 30 日 (水)

12 : 30 Discussion 3: Society and Journal

総合司会 : 山口 周 (日本学術会議連携会員、東京大学大学院工学系研究科教授)

12 : 40 講演 :

谷藤 幹子 (統合型材料開発・情報基盤部門 材料データプラットフォームセンター
副センター長)

福山 秀敏 (日本学術会議連携会員、東京理科大学総合研究所機構長)

他 2 名 (非会員 : 招待講演)

14 : 30 総合討論 :

(コメンテーター)

細野 秀雄 (日本学術会議第三部会員、東京工業大学フロンティア研究機構教授)

小谷 元子 (日本学術会議第三部会員、東北大学大学院理学研究科教授)

福山 秀敏 (日本学術会議連携会員、東京理科大学総合研究所機構長)

他 1 名 (非会員)

15 : 00-15 : 30 (休憩)

15 : 30 Discussion 4: Education and Public Presence

総合司会 : 吉田 豊信 (日本学術会議第三部会員、東京大学名誉教授)

15 : 40 講演 :

(非会員 : 招待講演 4 件)

17 : 30 総合討論 :

(コメンテーター)

細野 秀雄 (日本学術会議第三部会員、東京工業大学科学技術創成研究院教授)

中嶋 英雄 (日本学術会議第三部会員、若狭湾エネルギー研究センター所長)

山口 周 (日本学術会議連携会員、東京大学大学院工学系研究科教授)

他 3 名 (非会員)

18：00 閉会

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

(下線の登壇者は、主催分科会委員)

公開シンポジウム「ICT on Plant factory and intelligent greenhouse」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会・食料科学委員会合同 CIGR 分科会、日本学術会議農学委員会・食料科学委員会合同農業情報システム学分科会、日本学術会議農学委員会農業生産環境工学分科会、日本生物環境工学会、日本施設園芸協会
2. 後 援：日本農業工学会、農業情報学会、農業食料工学会、農業施設学会、日本農業気象学会、生態工学会、園芸学会、千葉大学環境健康フィールド科学センター（千葉大学植物工場拠点）、大阪府立大学植物工場研究センター、愛媛大学植物工場研究センター、愛媛大学（すべて予定）
3. 日 時：平成 2 9 年 9 月 2 日（土） 1 3 : 3 0 ~ 1 7 : 0 0
4. 場 所：愛媛大学農学部 大講義室
5. 分科会等の開催：開催予定
6. 開催趣旨：植物工場は、人工的な制御環境下において高効率の植物生産を行う農業生産施設であり、人類が持続的に農作物を獲得するためのツールとして社会的重要性が増している。環境制御技術が基盤となるが、ICT・自動化技術・機械化技術等の先端工業技術との融合による生産効率の最大化を目指した様々な取り組みが国内外でなされており、同時に、商業的成功を前提とした農業生産システムとしての社会実装も進められている。Plant Factory and Intelligent Greenhouse (PFIG) Working Group (WG) は、国際農業工学会 (CIGR) に設立された人工光型植物工場と太陽光植物工場を対象とした各種技術開発と社会実装を網羅する WG である。本シンポジウムでは、とりわけ、植物工場における ICT に立脚した生産技術と最新の植物科学研究との融合による新たな植物生産のあり方について検討するとともに、数年以内の実用化を想定した技術開発のあり方について議論する。
7. 次 第：

司会：清水 浩（日本学術会議連携会員、京都大学大学院農学研究科教授）

13 : 30 開会の挨拶 -日本学術会議の活動の紹介-

大西 隆（日本学術会議第三部会員・会長、豊橋技術科学大学学長、東京大学名誉教授）

14 : 00 「How plants sense environmental cycles」（仮題）

Antony Dodd（ブリストル大学 [イギリス] 教授）

福田弘和（大阪府立大学大学院工学研究科 准教授）

14 : 40 「Daily plant data for intelligent environmental control in greenhouse」

E. V. Henten（ワーゲニンゲン大学 [オランダ] 教授）

高山弘太郎（日本学術会議連携会員、愛媛大学大学院農学研究科准教授）

15 : 20－15 : 35 (休憩)

15 : 35 「Automation in agricultural production」(仮題)

Minzan Li (中国農業大学〔中国〕教授)

野口 伸 (日本学術会議連携会員、北海道大学大学院農学研究院教授)

16 : 15 「Current and future topics on plant factory」(仮題)

D. He (中国農業大学〔中国〕教授)

後藤英司 (千葉大学大学院園芸学研究科教授)

16 : 55 閉会の挨拶

澁澤 栄 (日本学術会議第二部会員、東京農工大学大学院農学研究院教授)

17 : 00 閉会

8. 関係部の承認の有無：第二部承認

日本学術会議近畿地区会議主催学術講演会
「超スマート社会に向けてー AI（人工知能）や IoT（モノのインターネット）により
私たちの生活はどう変わるかー」の開催について

1. 主 催 日本学術会議近畿地区会議、京都大学
2. 後 援 公益財団法人日本学術協力財団（予定）
3. 日 時 平成29年9月30日（土） 13:00 ～17:00
4. 場 所 京都大学国際科学イノベーション棟 シンポジウムホール（京都市左京区）

5. 開催趣旨

インターネットやスマートホン（スマホ）が身近な存在となり、ビッグデータやAI（人工知能）が至るところで利活用されるようになったいま、社会にも大きな変化が起こりつつある。本学術講演会では来たるべき“超スマート社会”の実現を支え、その実現に不可欠なIoT（モノのインターネット）を始めとする情報ネットワーク技術、AIの現状と動向、一応用例である自動運転技術の現状と課題等について明らかにするとともに、近い将来果たしてこれらの技術が社会にどのような影響を及ぼすのか、これからの生活世界を私たちはどう受けとめたらよいのか、4人の専門家の貴重な知見を市民の方々とも共有しつつ、解き明かしていきたいと考えている。

6. 次 第

全体司会

東野 輝夫（日本学術会議第三部会員、大阪大学大学院情報科学研究科教授）

開会挨拶

梶 茂樹（日本学術会議第一部会員・近畿地区会議代表幹事、京都産業大学現代社会学部教授）

日本学術会議会長挨拶

大西 隆（日本学術会議第三部会員・会長豊橋技術科学大学学長、東京大学名誉教授）

趣旨説明

吉田 進（日本学術会議第三部会員、京都大学特任教授・名誉教授）

講演1 「超スマート社会を実現するビッグデータ創出技術」

原田 博司（京都大学大学院情報学研究科教授）

講演2 「人工知能のもたらしつつあるもの」

西田 豊明（日本学術会議連携会員、京都大学大学院情報学研究科教授）

講演3 「自動運転の技術開発とその課題」

木津 雅文（トヨタ自動車(株) コネクティッドカンパニー ITS 企画部 部長）

講演4 「AIは雇用を奪うか」

井上 智洋（駒澤大学経済学部准教授）

全体討論 「AIやIoTが進展していく生活世界を私たちはどう受けとめたらよいか」

コーディネータ：兵藤 友博（日本学術会議第一部会員、立命館大学経営学部教授）

閉会挨拶

東野 輝夫（日本学術会議第三部会員、大阪大学大学院情報科学研究科教授）

（下線の講演者等は、主催地区会議所属の会員・連携会員）

6. 4及び5以外のシンポジウム等（第24期開催）

※第24期に会員・連携会員であると考えられる者が複数名、挨拶・講演することが要件。
(また、第24期冒頭にて主催分科会等を早急に設置すること。)

提案26

公開シンポジウム「司法面接：被面接者への心理的配慮と事実の解明」 の開催について

1. 主催 日本学術会議心理学・教育学委員会法と心理学分科会、同委員会社会のための心理学分科会
2. 共催 公益社団法人日本心理学会，法と心理学会，日本科学技術振興機構「多専門連携による司法面接の実施を促進する研修プログラムの開発と実装」プロジェクト
3. 日時・場所
 - (1) 平成29年11月18日（土） 13時30分～17時00分 福岡大学
 - (2) 平成29年12月 2日（土） 13時30分～17時00分 立命館大学
4. 分科会等の開催 なし
5. 開催趣旨
事件・事故を解決し、予防するためには、被害者、目撃者、被疑者等からの事実聴取が重要である。しかし、正確な情報を得るには、記憶の変容や精神的な二次被害など、さまざまな心理学的問題を乗り越える必要がある。本シンポジウムでは、子ども、障がいをもつ人、高齢である人、日本語でのやりとりがむずかしい人など、配慮が必要な人から話を聞く際の問題を検討し、研究の現状を紹介するとともに、今後の課題について議論する。心理学者の取組や実践を紹介し、社会における学術研究の意義を伝える。
6. 次第
 - 13:30 「趣旨説明」
伊東裕司（慶應義塾大学文学部教授）
 - 13:40 「警察における捜査面接訓練の現状」
山本渉太（警察大学校取調べ技術総合研究・研修センター教官）
 - 14:10 「目撃者遂行型調査：質問紙による目撃情報の収集法」
松尾加代（慶應義塾大学研究員）
 - 14:40 「ことばの壁をどう乗り越えるか：日本語が母語でない人に対する司法面接」
羽渕由子（徳山大学福祉情報学部教授）

15:10 休憩

15:30 「子どもから話をどう聴くか：司法面接の現状と展開」
仲真紀子（日本学術会議第一部会員、立命館大学総合心理学部教授）

16:00 「知的障がい者の供述特性に配慮した司法面接」
大橋靖史（淑徳大学総合福祉学部教授）

16:30 「総合討論」
箱田裕司（日本学術会議第一部会員、京都女子大学発達教育学部教授）

16:50 閉会の辞
伊東裕司（慶應義塾大学文学部教授）

7. 関係部の承認の有無 第一部承認

（下線の報告者等は主催分科会委員）

※ 申請理由：

- ・本シンポジウムの企画・準備は箱田裕司（第一部会員）、仲真紀子（第一部会員）が23期中に行ったが、開催場所の確保や登壇者の都合により、開催時期は24期とせざるを得なかった。
- ・来期の会員・連携会員の2名以上が参加する体制の確保を見込んでいる（今期法と心理学分科会の構成員から、22-23期会員の箱田裕司委員及び仲真紀子委員がシンポジウム参加予定）。

法と心理学分科会委員長 仲 真紀子

公開シンポジウム「これからのいのちと健康と生活をまもる
2. いのちをまもり健康を育む住まいを考える」の開催について

1. 主 催：日本学術会議健康・生活科学委員会、第 76 回日本公衆衛生学会総会実行委員会、全国公衆衛生関連学協会連絡協議会
2. 後 援：日本生命科学アカデミー（旧称：日本医歯薬アカデミー）、健康・省エネ住宅を推進する国民会議
3. 日 時：平成 29 年 11 月 2 日(木)13：00～16：00
4. 場 所：鹿児島県県民交流センター県民ホール
5. 分科会等の開催：なし
6. 開催趣旨

住まいは人生の長い期間を過ごす場所であり、住環境は健康に大きな影響を与えうる。旧来の日本家屋に比べ、近年の家屋は気密性が高くなり、化学物質などが使用された建材も多く、室内環境が大きく変わってきている。このような環境変化は住まう人々の健康に影響を及ぼしている。特に室内で長時間過ごす幼児・高齢者や妊婦などへの健康影響が注目されている。ハウスダストと小児アレルギーや妊婦への影響、温暖化に伴う室内環境の変化と高齢者の熱中症や生活習慣病はその最たる例である。一方、災害などで緊急避難的に住まうこととなった仮設住宅は、居住面積の制限や建材の材質により、ストレスを招き、生活習慣病のみならずメンタルヘルスにも大きな影響を及ぼすことが、巨大災害後の調査（特に直近では、東日本大震災や熊本地震）で明らかにされている。人々のいのちを守り、健康を育み、生活を守る住まいとはどのようなものであろうか。このシンポジウムでは、住まい環境が健康に与える影響に関して、四人のシンポジストによる講演と討論を行う。

7. 次 第：

講演会

13:00 開会のあいさつ：

秋葉 澄伯（日本学術会議第二部会員、鹿児島大学名誉教授）

13:10-15:00 講演と討論

座長：竹下 達也（和歌山県立医科大学医学部教授）

(1) 住まいと小児アレルギー

住居建材には多くの化学物質が使用されている。妊婦の住居環境や喫煙行動あるいは受動喫煙が学童期のアレルギーに及ぼす影響について考える。

鈴木 孝太（愛知医科大学医学部衛生学講座教授）

(2) 住まいと生活習慣病

スマートウェルネス住宅等推進調査事業として行われた試行調査結果に基づき、住まいの断熱性能と木質内装が血圧・睡眠・身体活動量に与える影響などを紹介する。

伊香賀 俊治（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学理工学部システムデザイン工学科教授）

(3) 災害時における住まいの安全

阪神・淡路大震災など過去の災害における調査結果に基づき、災害時における住まいの安全について、日常からの対策・対応を踏まえて述べる。

宮野 道雄（大阪市立大学特任教授・学長補佐）

(4) 災害時の仮設住宅と健康

東日本大震災の後に建設された仮設住宅では、冬の寒さ、結露、カビの発生、夏の暑さなどの問題が明らかにされた。それを踏まえて、今後の仮設住宅の環境設計の課題と留意点について述べる。

吉野 博（日本学術会議第三部会員、東北大学総長特命教授）

16:00 終わりの挨拶：

片田 範子（日本学術会議二部会員、関西医科大学看護学部設置準備室教授）

9. 関係各部の承認有無：第二部承認

（下線の講演者等は、主催委員会委員）

※申請理由

・日本学術会議健康・生活科学委員会では「これからのいのち・健康・生活をまもる」と題して継続してシンポジウムを行い、超少子高齢化社会における国民の健康を守り、増進させるための提言作成に繋げることを計画しております。第1回は2017年3月11日に「1. 災害時に生き抜く力を養う」というタイトルで慶應義塾大学三田キャンパスにおいてシンポジウムを開催しました。第2回目は2017年11月2日に「2. いのちをまもり健康を育む住まいを考える」を日本公衆衛生学会総会と共催で、鹿児島市で開催を計画しました。

・期をまたいでも分野別委員会は存続しますし、企画の中心である秋葉委員や片田委員らは第23-24期会員で、このシンポジウムに参画します。現会員も連携会員として数名参加する予定です。委員会メンバーの交代はあり得ますが、まずは継続的にシンポジウムを重ねて、提言作成するという初期の目的を果たすために、上記シンポジウムの開催をお認め頂きたいと思います。

・来期の会員・連携会員の2名以上が参加する体制の確保を見込んでいます（今期健康・生活科学委員会の構成員から、23-24期会員の秋葉澄伯委員及び片田範子委員がシンポジウム参加予定）。

「サイエンスアゴラ 2017」の開催について

1. 主 催：国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）、日本学術会議
2. 共 催：調整中
3. 後 援：調整中
4. 日 時：平成 29 年 11 月 24 日（金）～11 月 26 日（日）
5. 場 所：テレコムセンタービル
6. 分科会等の開催：開催予定
7. 開催趣旨：研究者・専門家と社会の様々なステークホルダー（市民、メディア、産業界、行政・政治）との対話の場、科学技術と社会の関係性についてのあらゆる「科学コミュニケーション」を深化させる場、科学コミュニケーションを通して、本当に社会に役立つ知恵を作り出すことに講演する場を提供することを目的とする。
 なお、日本学術会議は、科学と社会委員会ゲノム編集技術と社会に関する検討分科会がシンポジウムを実施することにより、共催の機関とともにサイエンスアゴラの主催の一員となるが、サイエンスアゴラ全体の主催は国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が担う。

8. 次 第：

「ゲノム編集時代の生殖医療と私たち」（仮）

日 時：平成 29 年 11 月 26 日（日）13：00～15：30 のうち、いずれか 90 分（予定）

場 所：テレコムセンタービル

定 員：50～100 名程度

開催趣旨：市民レベルでゲノム編集技術についての理解を広げ、問題の共有を図り、制度のあり方や個々人の心持ちも含めて議論することにより、「ゲノム編集技術の生殖医療応用のあり方」について議論を深めることを目的とする。

プログラム：

総合司会：石川 冬木（日本学術会議第二部会員、京都大学大学院生命科学研究科教授）

① 開会挨拶

石川 冬木（日本学術会議第二部会員、京都大学大学院生命科学研究科教授）

② 趣旨説明

石井 哲也（日本学術会議特任連携会員、北海道大学安全衛生本部教授）

③ 講演 1

産婦人科関係者（調整中）

④ 講演 2

伊藤 玲子（国立成育医療研究センター総合診療部総合診療科医員）

⑤ 講演 3 「ヒト受精卵ゲノム編集をめぐる世論を考える」（仮）

宮野 きぬ（NHK国際放送局ワールド・ニュース部チーフ・プロデューサー）

⑥ ディスカッション

⑦ 閉会挨拶

井野瀬 久美恵（日本学術会議第一部会員、甲南大学文学部教授）

（下線の講演者等は、主催委員会（分科会）委員）

※申請理由

・日本学術会議では、2006 年より毎年サイエンスアゴラへの企画の出展を行っている。
今年、科学と社会委員会ゲノム編集技術と社会に関する検討分科会がシンポジウムを主催することをもって、日本学術会議としてサイエンスアゴラの主催の一員となることを計画している。

・来期の会員・連携会員の2名以上が参加する体制の確保を見込んでいる。（今期科学と社会委員会ゲノム編集技術と社会に関する検討分科会の構成員から、22-23 期会員の井野瀬久美恵委員、23-24 期会員の石川冬木委員がシンポジウム参加予定）

日本学術会議東北地区会議主催学術講演会「超高齢社会—元気に、楽しく生きる知恵—
医学と工学の融合技術の挑戦—」の開催について

1. 主 催：日本学術会議東北地区会議、歯学委員会、基礎医学委員会生体医工学分科会、
機械工学委員会生産科学分科会

2. 共 催：仙台市、宮城県（予定）

3. 日 時：平成29年11月25日（土）13：30～17：00

4. 場 所：東北大学 青葉山東キャンパス工学研究科・工学部中央棟2階大講義室

5. 分科会等の開催：なし

6. 開催趣旨：

日本の人口は、現在、6年連続で減少しているということをご存じだろうか？国の予想では2050年には1億人を切り、2100年には4800万人になるとしている。しかもその1/3以上が65歳以上の老年人口となるのである。私たちはこのような超高齢社会の到来に向けて、健康で豊かな生活を送るためには何が必要か、また解決すべき技術課題は何かを、今のうちからバックキャスト的発想で考えていかなければならない。日本学術会議ではこの重大な課題に関して、様々な立場から議論を行っている。本シンポジウムでは、健康で長寿を全うするにはどうしたらいいについて、参加者と一緒に考えてみたい。

7. 次第

（1）開会挨拶

・日本学術会議会長（予定）

（2）「講演」

・川島 隆太（東北大学加齢医学研究所所長）

・永富 良一（日本学術会議連携会員、東北大学大学院医工学研究科教授）

・出江 紳一（日本学術会議連携会員、東北大学大学院医工学研究科教授）

・佐々木 啓一（日本学術会議連携会員、東北大学大学院歯学研究科長）

（3）閉会挨拶

・厨川 常元（日本学術会議第三部会員、東北大学大学院医工学研究科長・教授）

8. 関係部の承認の有無：第二部、第三部承認

（下線の講演者等は、主催地区会議所属の会員・連携会員）

※申請理由

・東北地区会議、史学委員会、基礎医学委員会生体医工学分科会及び機械工学委員会生産科学分科会は、公開シンポジウム「超高齢社会—元気に、楽しく生きる知恵—医学と工学の融合技術の挑戦—」を11月25日（土）に宮城県仙台市で開催することを計画している。

・来期の会員・連携会員の2名以上が参加する体制の確保を見込んでいる（今期東北地区

会議の構成員から、23-24 期会員の厨川常元委員、23-24 期連携会員の永富良一委員がシンポジウム参加予定)。

第三部会員、東北地区会議代表幹事 庄子 哲雄

公開シンポジウム「衛星情報・地理情報と防災イノベーション」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議防災減災・災害復興に関する学術連携委員会
2. 共 催：防災学術連携体
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成 29 年 11 月 26 日（日）うち 2 時間
5. 場 所：仙台国際センター
6. 分科会等の開催：なし

7. 開催趣旨：

人工衛星は、昼夜を問わず、地球に関する膨大なデータを取得し続けている。人工衛星によるデータは精度を高めつつあり、防災・減災、災害復興の幅広い分野に活用され始めている。さらに、リアルタイムでの情報提供につながる超小型衛星によるオンデマンド観測にも期待が集まっている。

また、高解像度の人工衛星データ、航空写真、地上での観測、災害復旧状況といった災害に関する様々な時空間的情報を地理情報システム上に重ね合わせて、ハザードマップなどの防災・減災に資する情報や、災害現場の避難、救援、復旧に役立つ情報を迅速に提供することが可能となってきた。

本シンポジウムでは、地球惑星科学連合、地理情報システム学会、日本リモートセンシング学会から、衛星情報・地理情報に関する現状と将来計画を紹介するとともに、防災学術連携体の各学会から、衛星情報・地理情報の利用事例を発表する。

衛星情報・地理情報のイノベティブな活用方法、未知の分野とのコラボレーションを模索するとともに、防災に関わる学会ネットワークである防災学術連携体に期待される役割についても議論する。

8. 次 第：

- | | | |
|------|---------------------|--|
| 0:00 | 挨拶 | 廣瀬 典昭（防災学術連携体代表幹事） |
| | 趣旨説明 | <u>和田 章（日本学術会議連携会員、東京工業大学名誉教授、防災減災・災害復興に関する学術連携委員会委員長）</u> |
| 0:05 | 人工衛星と防災（仮） | 地球惑星科学連合（13 分） |
| 0:18 | 地理情報と防災（仮） | 地理情報システム学会（13 分） |
| 0:31 | リモートセンシングと防災（仮） | 日本リモートセンシング学会（13 分） |
| 0:44 | 5つの学会発表「利用事例と今後の方向」 | （10 分 X 5 学会） |
| 1:34 | 質疑応答 | |
| 1:45 | 閉会挨拶 | <u>依田照彦（日本学術会議連携会員、早稲田大学名誉教授）</u> |

(下線の講演者等は、主催委員会委員)

＊本案は、防災推進国民大会 2017（主催：内閣府、防災推進協議会、防災推進国民会議）の団体別セッションの応募企画案です。

※申請理由

・開催主体である課題別委員会「防災減災・災害復興に関する学術連携委員会」の設置（2018 年 3 月末まで）を、次会期に申し送りいただきたく、お願いいたします。

・日本学術会議は防災推進国民会議の構成機関のため、防災推進国民会議が主催団体の一部をなす「防災推進国民大会 2017」には日本学術会議としての参加が重要であると考えます。

昨年行われた「第 1 回防災推進国民大会」においては、課題別委員会「防災減災・災害復興に関する学術連携委員会」が 2 つのプログラムを出展しました。

上記のことを踏まえると、本年の「防災推進国民大会 2017」への出展についても、「防災減災・災害復興に関する学術連携委員会」が主体となって準備を進めていくことが必要と考えます。

・来期の会員・連携会員の 2 名以上が参加する体制の確保を見込んでいます（今期防災減災・災害復興に関する学術連携委員会の構成員から、ともに 23・24 期連携会員の和田章委員、依田照彦委員がシンポジウム参加予定）。

防災減災・災害復興に関する学術連携委員会委員長 和田 章

公開シンポジウム「衛星情報・地理情報を防災に生かそう」の開催について

1. 主 催：日本学術会議防災減災・災害復興に関する学術連携委員会

2. 共 催：防災学術連携体、内閣府 防災担当
国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構
国土交通省 国土地理院

3. 後 援：なし

4. 日 時：平成 29 年 11 月 26 日（日）うち 2 時間

5. 場 所：仙台国際センター

6. 分科会等の開催：なし

7. 開催趣旨：

人工衛星は、昼夜を問わず、地球に関する膨大なデータを取得し続けてる。人工衛星によるデータは精度を高めつつあり、防災・減災、災害復興の幅広い分野に活用され始めている。さらに、リアルタイムでの情報提供につながる超小型衛星によるオンデマンド観測にも期待が集まっている。

また、高解像度の人工衛星データ、航空写真、地上での観測、災害復旧状況といった災害に関する様々な時空間的情報を地理情報システム上に重ね合わせて、ハザードマップなどの防災・減災に資する情報や、災害現場の避難、救援、復旧に役立つ情報を迅速に提供することが可能となってきた。

本セッションでは、衛星情報の防災分野での利用事例やイノベーティブな活用方法を紹介するとともに、地方自治体との連携の可能性、今後の未知の分野とのコラボレーションの可能性を模索したい。

8. 次 第：

- 0:00 挨拶 大西 隆（日本学術会議第三部会員・会長、豊橋技術科学大学
学長、東京大学名誉教授）
趣旨説明 米田雅子（日本学術会議第三部会員、慶應義塾大学先端研究センタ
ー特任教授、防災減災・災害復興に関する学術連携委員
会幹事）
- 0:05 衛星情報を防災に生かそう（仮） 宇宙航空研究開発機構
- 0:25 地理情報を防災に生かそう（仮） 国土地理院
- 0:45 ディスカッション「衛星情報・地理情報を防災に生かそう」
コーディネータ 日本学術会議
パネリスト 徳島県（予定）
パネリスト 宇宙航空研究開発機構
パネリスト 国土地理院
パネリスト （防災学術連携体の構成学会）

パネリスト (防災学術連携体の構成学会)

パネリスト (防災学術連携体の構成学会)

1:45 閉会

(下線の講演者等は、主催委員会委員)

※本案は、防災推進国民大会 2017（主催：内閣府、防災推進協議会、防災推進国民会議）の連携セッション「学術研究の成果を防災に生かす」の中の一企画案です。

※申請理由

・開催主体である課題別委員会「防災減災・災害復興に関する学術連携委員会」の設置（2018年3月末まで）を、次会期に申し送りいただきたく、お願いいたします。

・日本学術会議は防災推進国民会議の構成機関のため、防災推進国民会議が主催団体の一部をなす「防災推進国民大会 2017」には日本学術会議としての参加が重要であると考えます。

昨年行われた「第1回防災推進国民大会」においては、課題別委員会「防災減災・災害復興に関する学術連携委員会」が2つのプログラムを出展しました。

上記のことを踏まえると、本年の「防災推進国民大会 2017」への出展についても、「防災減災・災害復興に関する学術連携委員会」が主体となって準備を進めていくことが必要と考えます。

・来期の会員・連携会員の2名以上が参加する体制の確保を見込んでいます（今期防災減災・災害復興に関する学術連携委員会の構成員から、22-23期会員の大西隆委員、23期補欠会員の米田雅子委員がシンポジウム参加予定）。

防災減災・災害復興に関する学術連携委員会委員長 和田 章